

総合6位

6区間 44.5km
2時間12分24秒

出雲駅伝

4年ぶり
5回目

第25回出雲全日本大学選抜駅伝競走

今季は4年ぶりに学生三大駅伝すべてに出場した。その初戦となった出雲駅伝(2013年10月14日)はレース2週間前の日体大長距離競技会5000mで及川佑太(3年)、濱滝大記(2年)、岡本雄大(4年)の3人が中央学院大学記録(13分56秒98 / 川村希全 / 01年)を更新するなど、好タイムを連発。4年ぶりの出雲路では、その“スピード”を存分に発揮した。エース級が集結した1区で濱滝がトップ駒澤大学と26秒差の5位と好発進。2区では5000mの中央学院大学記録保持者(13分50秒22)となった及川が青山学院大学と法政大学を抜き去り、3位に浮上した。塩谷桂大(2年)が3区の長丁場で好位置をキープすると、4区の岡本が他の選手を17秒以上も引き離す快走で区間新記録を樹立。5区木部誠人(3年)と6区田中瑞穂(4年)が順位を落とされたものの、過去最高順位(10位)を大きく上回る6位でフィニッシュした。4区までに見せたアグレッシブな走りは、学生駅伝ファンに“中央学院大学”の存在を強烈に印象づけた。

区間	選手名	記録(区間順位)
1区(8.0km)	濱滝 大記 法学部2年	23分51秒(5位)
2区(5.8km)	及川 佑太 法学部3年	16分45秒(3位)
3区(7.9km)	塩谷 桂大 法学部2年	23分40秒(10位)
4区(6.2km)	岡本 雄大 法学部4年	17分46秒(区間新)
5区(6.4km)	木部 誠人 法学部3年	19分18秒(11位)
6区(10.2km)	田中 瑞穂 法学部4年	31分04秒(8位)



総合11位

8区間 106.8km
5時間25分31秒

全日本大学駅伝

4年ぶり
7回目

第45回全日本大学駅伝対校選手権大会

大駅伝2戦目となる全日本大学駅伝(2013年11月3日)は、出雲駅伝で活躍した岡本雄大(4年)、濱滝大記(2年)、塩谷桂大(2年)、及川佑太(3年)の主力4人を前半に配置。攻撃的なオーダーで「シード権(6位以内)」獲得を目指したが、序盤から苦しいレースになった。万全な状態ではなかったという岡本が1区9位と出遅れると、2区濱滝で12位に転落。3区塩谷が区間4位と好走して、4区及川が順位を2つ上げるものの、9位と伸び悩んだ。4区終了時で「最低でも6位」(川崎勇二監督)というミッションを果たすことができなかった。5区村上優輝(1年)、6区沼田大貴(4年)、7区松下弘大(3年)も振るわず、アンカー田中瑞穂が区間7位とまずまずの走りを見せたが、11位でフィニッシュ。出雲のようなインパクトを残すことなく、レースを終えた。「出雲は想定内のレースができましたが、全日本は懸念していた通りタフさがありませんでした。1区がすべてでしたね」と川崎監督。全日本での悔しさを箱根にぶつけることになった。

区間	選手名	記録(区間順位)
1区(14.6km)	岡本 雄大 法学部4年	44分26秒(9位)
2区(13.2km)	濱滝 大記 法学部2年	40分15秒(12位)
3区(9.5km)	塩谷 桂大 法学部2年	27分44秒(4位)
4区(14.0km)	及川 佑太 法学部3年	42分09秒(9位)
5区(11.6km)	村上 優輝 法学部1年	36分28秒(16位)
6区(12.3km)	沼田 大貴 法学部4年	37分24秒(9位)
7区(11.9km)	松下 弘大 法学部3年	36分56秒(11位)
8区(19.7km)	田中 瑞穂 法学部4年	1時間00分09秒(7位)



中央学院大学らしい粘り強さを見せてくれた 学長 椎名 市郎

選手たちは東京から箱根まで217.9kmという道のりを、無事にタスキをつないで東京・大手町に戻って来てくれました。選手諸君、本当にご苦労さまでした。箱根路を走ることができているのは10人だけですが、選手をサポートしてくれた多くの方々や伝統を引き継いでくれた4年生、そして次の世代の選手たちにもお疲れさまでと言いたいです。

初日に3分以上あったシード権までのタイム差を、2日目の大手町では57秒まで短縮してくれました。タイムではなく、中央学院大学

らしい粘り強い走りを我々に見せてくれたと思います。選手たちは一生懸命に頑張りましたが、選手の後ろにはたくさんのご家族、OB、そして応援団がいてくださいました。それから来年は絶対に走るんだ、と夢見ている選手たちもいます。引き続き、皆さま方にはご声援を賜れば幸いです。来年の箱根駅伝は予選会からの出発になりますが、2015年1月2日と3日には、13年連続通算16回目の出場を果たしたフラッシュイエローの中央学院大学のユニフォームが躍動していることを期待したいと思います。



気持ちと思いがあれば優勝に近づける 駅伝部 監督 川崎 勇二

今回の結果は正直、非常に悔しいです。この1年間チーム作りには苦労しました。4年生がどんどん離れていき、最後まで足まみが揃いませんでした。それでも、箱根のメンバーに選ばれなかった4年生がよくフォローしてくれたと思います。

1区は高速レースが予想されていたので、それに対応できるのは濱滝しかいませんでした。2区以降はなんとかつないで、5区及川で順位を上げる想定をしていました。でも、なかなかうまくいかないの

が駅伝です。5区は予想以上に苦しみました。復路はシード権まで3分06秒という状況でしたが、8区沼田と9区区中で挽回して、10区の山田でなんとかしたいと思っていました。しかしながら、57秒届きませんでした。でも、沼田と山田の走りは私の心を打つものがありました。中央学院大学に能力の高い選手はそんなにいませんが、気持ちと思いがあれば、箱根駅伝は優勝に近づける。次回は予選会からの出発になりますが、「気持ち」の部分を大切にしながら、今後も上を目指して戦っていきます。



つねたき ひろのり
1区 濱滝 大記 (法学部2年 / 笠田 / 和歌山)
高速レースになり、15km手前で脚がケイレン気味になってしまいました。僕があと1分速ければシード権を獲得できたと思うので、自分の力不足です。



おかもと ゆうだい
2区 岡本 雄大 (法学部4年 / 岡山工業 / 岡山)
後半ズルズルと落ちてしまい、4年生らしい走りがあったできませんでした。本番に向けてベストの状態に合わせられなかったことが悔しいです。



しおや けいた
3区 塩谷 桂大 (法学部2年 / 那須拓陽 / 栃木)
前回失敗した同じ区間を任せられたので、その悔しい気持ちをぶつけました。調子も良くて、個人的にはチームに貢献する走りできたかなと思います。



むらかみ ゆうき
4区 村上 優輝 (法学部1年 / 西脇工業 / 兵庫)
笑顔がでるくらい応援が凄くて、楽しく走ることができました。区間順位は良くなかったですが、総合順位は下げることなく走れてホッとしています。



おいかわ ゆうた
5区 及川 佑太 (法学部3年 / 利府 / 宮城)
状態は悪くなかったですが、気持ちの部分で足らなかったのかもしれない。僕らに落ちてシードを落とすと思うので、この悔しさを来年にぶつけます。



えびさわ つよし
6区 海老澤 剛 (法学部1年 / 水城 / 茨城)
最初の5kmは良かったのですが、本格的な下りに入っとうまく切り替えることができませんでした。今回の経験を今後に生かしていきたいです。



きべ まこと
7区 木部 誠人 (法学部3年 / 桂 / 京都)
シード権まで3分差あったので、自分のところで1分は詰めたかと思っていました。しかし、10秒ほどしか詰めることができず、個人的にも悔しいです。



ぬまた だいき
8区 沼田 大貴 (法学部4年 / 日立工業 / 茨城)
故障が長引き、迷惑をかけたので、チームに貢献する走りを心がけました。区間順位は3位でしたが、総合結果に結びつかずに悔しい気持ちがあります。



たなか みずほ
9区 田中 瑞穂 (法学部4年 / 県立西宮 / 兵庫)
沼田がいい流れで来てくれたので、さらに勢いをつけるつもりでした。でも、ひとりで押して行くという持ち味を発揮することができず悔しいです。



やまだ ゆうき
10区 山田 侑紀 (法学部3年 / 飾磨工業 / 兵庫)
8区の沼田さんが一気に詰めてくれたので、自分もという気持ちで、ひたすら前を追いました。来年はシード権を獲得できるように頑張っていきたいです。

学生三大駅伝 結果報告 RESULT REPORT



出雲駅伝・全日本大学駅伝・箱根駅伝

ご声援ありがとうございました!

2014



中央学院大学

中央学院大学

〒270-1196 千葉県我孫子市久寺家51
TEL:04-7183-6501(代)

http://www.cgu.ac.jp/

総合12位
10区間 217.9km
11時間15分40秒

箱根駅伝

第90回東京箱根間往復大学駅伝競走

12年連続
15回目

往路での遅れを復路で挽回するも、
2年連続の“シード権”に57秒届かず

第90回記念大会となった東京箱根間往復大学駅伝競走は2014年1月2～3日に行われた。史上最多23校が新春の箱根路に飛び出して、10区間217.9kmのドラマが幕を開けた。
12年連続15回目の出場となった中央学院大学は序盤の高速レースをしのいで4区終了時で10位につけた。しかし、期待されていた5区の及川佑太（3年）が苦戦。初日の往路をシード権獲得となる10位から3分06秒遅れの13位で終えた。復路では上級生が奮起。8区沼田大貴（4年）と10区山田侑紀（3年）が猛追。最終的には10位と57秒差の12位でフィニッシュした。

1区から高速レースになった今大会は東洋大学が2年ぶり4回目の総合優勝。歴代2位となる10時間52分51秒という好タイムを刻んで、駅伝3冠を目指した駒澤大学に4分34秒の大差をつけた。前回優勝の日本体育大学が3位。山梨学院大学は2区で無念の途中棄権となった。

中央学院大学は往路5時間40分18秒（13位）、復路5時間35分22秒（8位）。総合記録はチーム歴代3位となる11時間15分40秒も、シード権を手にすることができなかった。4年



ぶりに学生三大駅伝すべてに出場した中央学院大学の戦いは、「悔しい」結果で幕を閉じたが、選手たちの見せた“熱い気持ち”が来季の活躍につながることを期待したい。

往路 期待の5区で苦戦、シードから3分遅れ

高速レースとなった1区は、スピードのある清滝大記を起用して、13位で発進した。故障上りの岡本雄大が“花の2区”を区間15位でしのぐと、2年連続となった3区の塩谷桂大が区間4位と快走。5人抜きで10位に浮上した。村上優輝が順位をキープして、5区及川佑太で勝負に出るはずだった。しかし、期待の及川が動かない。初めての山の上りで、設定タイムを4分以上オーバーして13位に後退。往路でシード圏内に突入するシナリオは“山”で崩れた。

復路 2人の上級生が猛追、シード権に迫る激走を披露

2日目はシード権ラインと3分06秒差でスタート。学生駅伝初出場の6区海老澤剛が区間12位でまとめるも、7区木部誠人が思うように前を追うことができなかった。それでも、8区沼田大貴が区間3位と快走。ひとりでシード権ラインまで1分近く詰め寄せた。9区田中瑞穂は持ち味を發揮することができなかったが、10区山田侑紀も激走を見せる。故障から12月に復帰したばかりのアンカーが闘争心あふれる走りで見事な追いかけ、シード権まで57秒差に迫った。

総合順位	大学名	総合記録	総合順位	大学名	総合記録
1位	東洋大学	10時間52分51秒	13位	東海大学	11時間17分52秒
2位	駒澤大学	10時間57分25秒	14位	東京農業大学	11時間18分02秒
3位	日本体育大学	11時間03分51秒	15位	中央大学	11時間18分43秒
4位	早稲田大学	11時間04分17秒	16位	順天堂大学	11時間19分03秒
5位	青山学院大学	11時間08分53秒	17位	國學院大学	11時間20分44秒
6位	明治大学	11時間10分09秒	18位	神奈川大学	11時間23分47秒
7位	日本大学	11時間12分52秒	19位	城西大学	11時間25分42秒
8位	帝京大学	11時間13分03秒	20位	上武大学	11時間25分56秒
9位	拓殖大学	11時間13分06秒	21位	専修大学	11時間28分39秒
10位	大東文化大学	11時間14分43秒	22位	国士舘大学	11時間38分35秒
11位	法政大学	11時間15分33秒	—	山梨学院大学	記録なし
12位	中央学院大学	11時間15分40秒			

区間	選手名	記録(区間順位)
1区(21.4 km)	清滝 大記 法学部2年	1時間03分34秒 (13位)
2区(23.2 km)	岡本 雄大 法学部4年	1時間11分29秒 (15位)
3区(21.5 km)	塩谷 桂大 法学部2年	1時間03分55秒 (4位)
4区(18.5 km)	村上 優輝 法学部1年	56分54秒 (15位)
5区(23.4 km)	及川 佑太 法学部3年	1時間24分26秒 (18位)
6区(20.8 km)	海老澤 剛 法学部1年	1時間01分01秒 (12位)
7区(21.3 km)	木部 誠人 法学部3年	1時間06分04秒 (16位)
8区(21.5 km)	沼田 大貴 法学部4年	1時間05分47秒 (3位)
9区(23.2 km)	田中 瑞穂 法学部4年	1時間11分14秒 (12位)
10区(23.1 km)	山田 侑紀 法学部3年	1時間11分16秒 (7位)



1区

高速レースに食らい付いた

清滝 大記

高速レースが予想された1区は、「清滝しかない」（川崎監督）と3000m障害で日本トップレベルの実力を誇る清滝大記（2年）を起用。5km14分09秒、10km28分36秒という超ハイペースに食らい付くも、後半は徐々に集団から引き離され、トップから2分09秒遅れの13位で中絶した。

2区

主将がエース区間をしのぐ

岡本 雄大

“花の2区”は岡本雄大（4年）、故障の影響で万全な状態ではなかったものの、主将が区間15位とまとめて、タスキをつなげた。

3区

前回のリベンジを果たす快走

塩谷 桂大

3区は2年連続で同じ区間を任せられた塩谷桂大（2年）。前は区間18位に終わったが、今回は素晴らしい走りを見せた。区間4位の快走で5人抜き。シード権獲得ラインとなる10位まで順位を押し上げた。

4区

ルーキーが10位を死守

村上 優輝

唯一20kmを切るショート区間は村上優輝（1年）。全日本大学駅伝では順位を2つ落としたが、川崎監督が「よくつないでくれた」と言う堅実な走り、今回は順位をキープした。

5区

悔しさを来年につづける

及川 佑太

5区及川佑太（3年）は、川崎監督が「1時間19分30秒で走れると期待を込めて送り出した選手。適性を見出され、絶対強くて山の上りだったけど、思うように走れなかった。来季のリベンジに期待したい。」

6区

山下りをルーキーが好走

海老澤 剛

一斉スタートとなった復路6区は学生駅伝初出場の海老澤剛（1年）。目標タイムには到達しなかったものの、区間12位でしっかりとまとめた。

7区

連続シードを諦めずに追った

木部 誠人

7区は2年連続で同じ区間を担った木部誠人（3年）。思うような順位には上がらなかったが、ひたすら前を追って、昨年のタイムを上回る走りで見事な追いかけ、シード権まで57秒差に迫った。

8区

4年生が意地の力走

沼田 大貴

8区沼田大貴（4年）は川崎監督の期待通りに、区間3位と快走。走行期で18番目から10番目にUP。シード権ラインまで1分近く詰め寄る強い気持ちの走りを見せた。

9区

不調のなかで懸命な走り

田中 瑞穂

9区は前回まで3年連続で5区を担ってきた田中瑞穂（4年）。本学では数少ない4年連続の箱根ランナーとなった。不調のなかでシード権に向かって懸命に前を追いかけた。

10区

次につながる熱い走り

山田 侑紀

10区山田侑紀（3年）は気持ちのこもった激走を披露。12月に復帰したばかりとは思えないアグレッシブな走りで見事な追いかけ、シード権に57秒差まで迫った。